

## 短大特任教員教育研究業績書

平成30年5月1日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
生島 嘉人	いくしま よしと	保育学科 通信教育課程	准教授	男

## 担当科目名

身体表現Ⅰ・Ⅱ、健康スポーツ実技

## 学歴

和暦(西暦)年 月	事項	学位
平成26年(2014)年4月	人間総合科学大学大学院 心身健康科学専攻 修士課程入学	
平成29年(2017)年3月	人間総合科学大学大学院 心身健康科学専攻 修士課程修了	修士 (心身健康学)

## 教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
沖縄県教育委員会	平成10年4月 ～平成20年3月	地域健康促進課所属委託職員
愛知県社会福祉協議会	平成20年4月 ～平成23年3月	児童発達支援センター 委託職員
愛知県半田特別支援学校	平成24年4月 ～平成24年3月	教職員
愛知学泉大学	平成24年4月 ～平成30年3月	家政学部 専任講師
小田原短期大学	平成24年4月 ～現在に至る	保育学科通信教育課程 准教授

## 所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
健康運動指導士会	平成20年～	大会参加
日本発達障害学会	平成25年～	大会参加 発表
日本自閉所スペクトラム学会	平成24年～	大会参加 発表
心身健康学会	平成29年～	大会参加 発表

## 社会活動等

名称	活動期間	活動内容
自閉症認知発達治療中級コースセミナー	平成22年	講座 障害児学校教育部「特別支援学級推進集会」
社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会	平成21年	講座 特別支援教育「地域で共に学び、共に育つ特別支援教育を」
第28回 自閉症セミナー講座	平成20年	「児童虐待について」
第29回 自閉症セミナー講座	平成21年	障害児学校教育部「誰でも簡単ヨガ入門」
第2回 名古屋フィットネスフェスタ	平成21年	講座 『その人らしい生活を送るために…地域生活時代に向かって…』
熱田区障害者地域生活支援センター	平成22年	講座 自閉症児(者)への教育 「障害児の為の運動支援
第30回 自閉症セミナー講座	平成22年	自閉症児(者)への教育 「ソーシャルスキルワーク」 保育者のための社会福祉講座「児童家庭福祉」とは
保育者のための社会福祉講座	平成23年	福祉従事者のための基礎知識「きになるこどもってなんだろう？」

地域こども療育センター講座	平成 24 年	感覚統合に関する支援内容、及び援助方法について実技を交えながら学ぶ。
豊田市食育推進計画	平成 25 年	幼児に対する食育の実施 豊田市内、公立園の食育活動訪問
障害児福祉施設にて援助活動	平成 26 年	NPO法人発達障害支援センターにて
日本テレビ系 24 時間テレビ『愛は地球を救う』	平成 27 年	豊橋市生涯福祉課との産学連携事業サテライトイベント豊橋市市民センターにて開催
発達障碍児の為に集団競技(サッカー)	平成 27 年	マルヤス FC (JFL 所属) との共同研究
日本テレビ系 24 時間テレビ『愛は地球を救う』	平成 28 年	岡崎市生涯福祉課との産学連携事業サテライトイベント岡崎市シビックセンターにて開催

担当教科目に関する資格・免許等

名 称	取得年月	取 得 機 関
中学・高等学校教員免許状	平成 6 年	文部科学省
健康運動指導士	平成 12 年	健康・体力づくり事業財団
幼児体育指導員	平成 6 年	公益財団法人日本幼少年体育協会
社会福祉士	平成 12 年	厚生労働省
特別支援学校教諭 1 種免許状	平成 6 年	文部科学省

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 『知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉』	共	平成 25 年 12 月	教育情報出版	障害ってふつうじゃないの？ ー障害のある子どもへの福祉サービスー 保育士は、障害のある児童に対して、その特性に応じた具体的な支援が求められます。この chapter では、障害についての定義や法律、制度、サービス体系を知り、障害児者とその家族のおかれた状況を理解するとともに今後の支援上の課題を考えます。
2. 新版保育内容『健康』	共	平成 25 年 8 月	大学図書出版	乳幼児期の発達における健康の意義や保育者の役割について詳しくふれ、また園生活を通して、子どもたちがしなやかな心とからだを培っていきけるような、豊かな体験を積み重ねていきけるようにするためには、保育者が園内外の環境をどう構成し、どのような役割を果たしていけばよいのかについて詳しくふれる
(学術論文) 幼児のライフスタイルが体力、運動能力に及ぼす影響	単	平成 16 年 9 月	琉球大学教育学部紀要	社会変化にともなって子どもの環境も変化しており、現在のライフスタイルは子どもの健康および体力向上から見たとき好ましい状況であるとは言えないことが予測される。本研究では、住居環境の違いによって生活スタイルおよび日常行われている遊びの比較を通して、幼児の健康状態および運動能力について検討を行った。

発達障害の食行動と身体状況について	共	2016年8月	日本自閉症スペクトラム学会	<p>近年、食生活が生活習慣の基本でもあることから食習慣の乱れが生活習慣病の根本であると考えられ、内閣府では食育基本法を定め食生活の基礎を身につけるように指導している。しかし、発達障害児においては、食に対するこだわりによる過食、偏食など食生活における問題が指摘されてはいる*が、健常者に比べ食育に関する研究は遅れていると思われる。</p> <p>そこで、本研究では広汎性発達障害児における食行動の特徴と身体状況との関連を調査し、食行動における問題点を抽出したので報告する。</p>
教育現場における発達障がい児支援～ストレスによる問題行動に着目して～	単	平成29年2月	日本心身健康科学学会	<p>支援で重要なことは、子ども自体にストレスを感じさせず、本人にとって自然なかたちで望ましい行動を生み出す素地を作ることが求められ、そのためには、発達障がい児の行動だけでなく、「正の強化」を得やすくするような環境づくりが求められる。さらに、集団活動においては、「障がい児、健常児、教員」というトライアングルの関係が必要と考える</p>
あるNPO法人における発達障害児の食行動と身体状況について	単	平成29年11月	愛知学泉大学紀要	<p>2002年に文部科学省が全国5地域の公立小学校、中学校の通常の学級に在籍する児童生徒を対象に調査した結果、知的遅れはないものの、学習面や行動面で著しい困難を持っている児童生徒は全体の約6.3%認められ、その中に発達障害のある子どもが含まれている可能性があるとして報告されている。本研究では広汎性発達障害児における食行動の特徴と身体状況との関連を調査し、食行動における問題点を抽出したので報告する。</p>
その他 (表彰等)				